



南部町立南部中学校 学校だより R7 第18号

城山の風

令和8年1月20日(火)

校長 樋口 信也

本年もよろしくお願いたします。

年が明け、2026(令和8)年になりました。本年も南部中学校をよろしくお願いたします。令和になってもう8年目です。ついこの前令和になったと思ったらもう8年かと月日の経つ早さをしみじみと感じています。

1月13日に南部中学校の3学期が始まりました。始業式に、各学年と生徒会代表が3学期の抱負を発表しました。

1年代表：三澤美莉愛さん

「部活と勉強の両立をしていく。行動が遅いという1年生の課題があるので、先のことを考えて行動していく。」

2年代表：望月 斗蒼さん

「やるべきことを実行する。3年生への準備期間と捉え、受験も含めて意識していく。」

3年代表：深田 大暉さん

「今自分たちは岐路に立っている。計画的に物事を進め、有終の美を飾りたい。」

生徒会代表：青山 美月さん

「大事な時期である。振り返りをしながら次に向かってしっかりと準備をしていく。」

それぞれ、自分たちの現状と課題、今後どうしていくか、それがよく分かっている内容でした。3学期も楽しみです。

1月10日に、南部町はたちのつどいが行われました。中学2・3年時に学年主任をしていた私も出席し、夕方からの同窓会にも招待してもらいました。話題は中学時代の思い出と近況報告が中心でしたが、一人一人がしっかりと考えて自分で決めた道を歩んでいることに感心しました。自分で考えて決めることの大切さをあらためて実感し、始業式に次のような話をしました。

「気づき 考え 行動 そして感動」の考えと行動の間にあるものは何でしょう。この間に何か入れるとしたらどんなことが入ると思いますか。

それは決めるということです。判断するといってもよいでしょう。「考え 行動」ですから、「考え」の中にすでに決めるという要素も入っている訳ですが、あえて考えてもらいました。自分で決めることは自分らしく生きていく上でとても大切なことだからです。

重要なことを決めたり、迷ったりしたときは人に相談しますが、最後は自分で決めるのです。人に決めてもらえれば楽で、責任逃れの口実にもなりますが、それではつまらないです。自分で決めてこそ、自分の人生を歩いている実感があるというものです。

みんなは未成年ですから自分だけでは決められないこともたくさんありますが、日常生

活のちょっとしたことから自分で決めるようにしていきましょう。決められる人になってください。

1 年生 職業ワイド相談

1月15日に、1年生の進路学習として職業ワイド相談を行いました。様々な仕事に就いている人の話を聞き、働くことの目的や意義を知ったり、将来の生き方を考える機会にしたりするために行っています。

今年は、保育士、医師、パティシエール、ロボット研究開発者の方々に講師をしていただきました。生徒は4つのグループに分かれ、順番に4人の方のお話を聞きました。今の仕事を選んだ理由、仕事をしていて楽しいこと・辛いこと、何のために働くか、中学生へのアドバイスなどの話をみんな真剣に聞いていました。

職業を選ぶ際には、どんな仕事なのかを知ることが大切です。知らない職業は、選択肢に入りにくいものです。将来の職業選択の幅を広げる良い機会になりました。



新春 校内書きぞめ大会

1月13日に、校内書きぞめ大会を行いました。1年生は「春風」、2年生は「青雲の志」、3年生は「天地清新」です。冬休みに家庭で練習をし、当日は、練習10枚と清書10枚を書きました。各教室を回りましたが、南部中は字が上手な生徒がとても多いです。静かに書に向かう様子は、新春に似つかわしいとても清々しいものでした。



新ALT ピーター・ファレル先生

カリーシャ先生が、自分の夢を実現させるために東京に行くことになり、2学期末で南部中のALTをやめられました。2学期終業式の日、日本語で生徒達へのお別れの言葉をいただきました。また、3年生には、ご自身が南部中学生のために書いた「恐れなき未来 ～高校生活とその先を切り拓く～」という本をプレゼントしていただきました。

そして、1月19日に、新しいALTとしてピーター・ファレル（Peter Farrell）先生が赴任しました。ピーター先生は、イギリス出身で、2016年から東京などの小中学校で語学指導に従事してきました。とてもユニークな先生で、自己紹介で「ピーターパン、ピーターラビット」などと冗談を言って、場を和やかにしていました。

